



冬期間の鳥獣被害対策

福島県農林水産部農業振興課



秋も深まり、ほ場に農作物が少なくなってくると、管理されていない果樹など人間には不要となったものも野生鳥獣にとっては魅力のある餌になりますので、早期に処理しましょう。

また、収穫が終わったほ場の電気さくのワイヤーを撤去しない場合は、農作物がなくても通電しましょう。電気さくは心理柵であることから通電していない電気さくに慣れてしまい再通電したとき、期待した効果が得られなくなることがあります。

1 未利用果樹や生ゴミの適正な処理

自家用として植栽しているカキやクリは、近年、十分に管理されていないことが多く、果実がサルやクマはもちろんのこと、落下したものもイノシシの餌になり、これらの果樹は、集落周りに野生鳥獣を呼び寄せています。集落周りに自生する野生のクリやクルミなども同様です。不要な樹木は伐採し、収穫残渣をなくしましょう。

また、生ゴミも野生鳥獣にとっては魅力ある食べ物です。穴を掘って埋めるなど、むやみに捨てることはやめましょう。収穫残渣や生ゴミを容易に食べることができれば野生鳥獣は集落周りに住み続けます。

2 収穫後の電気さくの管理

電気さくは獣が電気ショックを経験することにより、その痛みから柵周辺に近づかなくする心理柵です。通電しないまま設置していると、電気ショックを感じないため電気さくを恐れなくなります。

獣は体の大部分が毛に覆われているため電気ショックを感じる場所は鼻など一部に限られています。しかし、電気さくを恐れなくなり慣れてくるとワイヤーを避けるためあらかじめ頭を下げて地面との間をすり抜けるので、通電時に感電する確率が大きく下がります。

積雪のない中通りや浜通りでは、作物の収穫後電気さくがそのまま設置されていることがよく見受けられますが、作付けのない時期にワイヤーを撤去しない場合は、通電を継続してください。

3 イチゴの被害対策

イチゴの収穫が始まると、施設内であってもハクビシンによる被害が見られます。ハクビシンは夜行性で、甘いものが大好きです。中でもイチゴは好物です。ハクビシンの

施設内への侵入パターンは次の3つがよく見受けられますので、良く点検し侵入を防止しましょう。

①地面との隙間から

ハクビシンの頭骨の高さは6 cm以下で、5～6 cm程度の隙間があれば侵入できます。出入口をはじめ小さな隙間をよく点検してください。

②ビニールを破いて

ビニールに小さな穴が開いていたり、たるみがあったりすると噛んで侵入できる大きさに破きます。ビニールは破れを補修するとともに、たるみなく張りましょう。

③天窓や換気扇から

ハクビシンは登ることが得意なことから、天窓や換気扇の隙間からも侵入します。天窓や換気扇周りも隙間をよく点検してください。

施設を点検・補修してもハクビシンの侵入痕跡が認められる場合は、ほ場周囲に電気さくを設置すると効果的です。電気さくは施設から15 cm程度離れた位置に地面から10 cm間隔で3段（各段ともプラス通電）張ります。支柱間隔は2 mが基本ですが、地面の凹凸に合わせ適宜追加し、地面とワイヤーの間隔が10 cm以上にならないように気をつけましょう。

なお、ハクビシンなどの中型獣は、廃屋や神社仏閣、住宅や倉庫の屋根裏、野積みされた樹木などの中を寝屋としていることが多いので、ほ場周辺にそれらがある場合は注意が必要です。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL024(521)7339

○農業振興課ホームページ：以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

○ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>